

地方創生 やらまいか通信 vol.26

発行日：平成 28 年 1 月 6 日

輝く未来へ今、袋井が動き出す！

ラグビーワールドカップ 2019



(講師)

ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会 事業部長 伊達 亮 氏

EY総合研究所 未来社会・産業研究部長 小川高志 氏

H27.12月

H28.1月

2月

3月

4月

キックオフ講演会

推進委員会 (設置)



地方創生「総合戦略」～抜粋～

挑戦1 若者が魅力を感じるまちづくりへの挑戦

取組6 シティプロモーションの充実・強化

全国・世界に向けた情報発信の強化

本市周辺の大学や専門学校などに留学している外国人の協力のもと、本市の存在を世界に向けてアピールし、交流人口の増加を促す。

挑戦2 ふくろい「場のチカラ」を向上させる挑戦

取組2 国内外に向けた情報発信の強化

SNSの活用や首都圏・中京圏の旅行会社等の招聘など、本市を知り、実際に来てもらうまでの戦略的なアプローチを視野に入れた情報発信を行う。

(市長コメント)

ウィングを広げ、新しいまちを共創しよう

ラグビーワールドカップというメガスポーツイベントの開催・受入を契機に、このまちを新しい時代に向け大きく変化させることに挑戦したい。

大会開催までに残された時間の使い方は大変重要で、例えば、4年間あれば市民や学生の英語力向上も夢でなく、他国の人と簡単なコミュニケーションをとることは十分可能である。

本日参加の皆さんをはじめ、推進委員会など多くの方々に、このまちの未来や夢を語っていただきたい。



教えてラグビーワールドカップ (Q&A)

Q)どのくらいの人があいつ来訪するの？

A)組織委員会は2～3週間前から現地入り、メディアも1週間前。
各チームは公開練習を含め、前々日くらいからは現地入りする。
各チームの選手団は60名。観客は当日入りもあり、いろいろ。

Q)キャンプ地の誘致ってどうなっているの？

A)組織委員会が斡旋する「公認キャンプ地」が40前後、その他各自治体とチームが直接交渉する「事前キャンプ地」がある。
公認キャンプ地は、会場までの距離、練習施設の状況、宿泊施設のアメニティーなど、各チームの要望に応える必要がある。

ラグビーワールドカップの大会そのものは、組織委員会が責任もって運営する。開催地はこの機会をぜひ大いに活用して欲しい。

